

## 平成25年度

### 新居浜市立郷土美術館協議会

1. 日 時 平成25年 11月 29日 (金) 16:00～

2. 場 所 本庁2階 23会議室

3. 出席委員 8名 (定員10名)

4. 事務局 5名

5. 傍聴人数 0名

#### 6. 議題

(1) 会長・副会長の選任について

(2) 郷土美術館の運営について

ア 平成24年度 事業結果報告

イ 平成25年度 事業経過報告

ウ 平成26年度 事業計画

(3) その他

**事務局** 本日は非常に寒い中、また大変お忙しい中ご出席いただきまして誠にありがとうございます。ただ今から平成 25 年度郷土美術館協議会を開催いたします。今回は委員改選後最初の会議になりますので、会長・副会長が選任されるまでの間は、事務局長の方で司会を務めさせていただきます。協議に入ります前に新居浜市審議会等の公開ということで委員の皆さんにご承認をお願いいたします。よろしいでしょうか。会議録作成の為、録音をさせていただきますので宜しくお願いします。はじめに阿部教育長からご挨拶申し上げます。

**教育長** 皆さん、こんにちは。本日は大変寒い中、またお忙しい仕事納めの中、お集まりいただき誠にありがとうございます。平成 25 年度の協議会ということで、前委員の任期が 11 月 12 日まででしたので、11 月 7 日の定例教育委で各所団体から推薦いただき、新たな郷土美術館協議会委員として本日みなさんにお集まりいただきました。任期は 2 年間ですので、平成 27 年 11 月 12 日までどうぞ宜しくお願い致します。また現在、総合文化施設の建設が進んでおり、この 2 年間は両施設の情報が同時進行する特殊な状況となります。今後、様々なお話があらうかと思いますが、まずは郷土美術館の最後の締めをする気持ちで取り組んでいただきたく思います。お忙しい時ではございますが、新居浜市の文化、芸術を支える一員だという認識でご支援のほどお願いいたします。

**事務局** 続きまして、それぞれ委員の自己紹介をお願いいたします。

**委員** (それぞれ自己紹介)

**事務局** ありがとうございました。新居浜市立郷土美術館管理運営規則第 17 条第 2 項の規定によりまして 10 人中 8 人出席して頂き過半数に達しておりますことから、この会議は成立いたしております。

それでは早速、議題に入ってまいりたいと思います。まずはじめに協議会会長・副会長の選任をさせていただきます。新居浜市立郷土美術館管理運営規則第 16 条第 2 項の規定により会長・副会長は委員の互選によるとされておりますので委員の皆さんのご意見を伺います。ちなみに前会長は美術専門家の日野功委員、副会長は社会教育委員会の篠原雅士委員をお願いをしていました。委員の皆様、推薦をお願いします。

**井上委員** 引き続き、日野先生と篠原先生にお願い出来ましたらと思いますがいかかでしょうか。

**事務局** ほかにご意見ございませんでしょうか。なければ、会長に日野委員、副会長に篠原委員ということで、賛成の方は拍手をお願い致します。

**委員** (拍手)

**事務局** 満場一致で、決定です。それでは会長と副会長は、前の方へ、席を移動してください。

日野・篠原 委員	(移動)
事務局	一言ずつ挨拶をいただきたいと思います。
会長	ただいま会長ということで大変な役を仰せ司りました。総合文化施設の建設が進む中で、これから様々な問題に対して、色んな物に対しても勉強しながら、前向きに検討したり考えたりしないといけないと思います。文化協会会長でもある篠原先生と共に精魂頑張ってお参りたいと思いますので、みなさん温かいご支援お願い申し上げます。
副会長	日野先生もいらっしゃるので、この会の進行もスムーズに動くと思います。どうぞよろしくお願い致します。
事務局	ありがとうございました。ではここからは日野会長に議事進行をお願いします。
日野会長	はい。では、今日の議題を進めます。議題 2 郷土美術館の運営について、平成 24 年度事業結果報告について事務局より説明をお願いします。
事務局	はい。平成 24 年度は特別企画展と企画展をそれぞれ 1 本ずつ開催しました。特別企画展「ジブリのアニメーション 近藤勝也展」では入館者数が 13,717 名となり、県内外から大勢の方に来館いただきました。1 月には「西原元 美と幻想の世界」を開催し、物故作家の展覧会でしたが 1,547 名の入館者となりました。また、教育普及活動として企画展関連のワークショップやギャラリートークを開催、また展示室のガイドおよびボランティア活動を継続的に実施しております。入館者数の合計が 55,464 名で、132 パーセント増となっておりますが、この増加の要因としてはやはり「近藤勝也展」の影響が大きいと思われま
会長	ありがとうございました。やはりジブリは桁違いに凄いですね。皆さん方、ご質問はありますか。ないようでしたら次の議題にうつります。
事務局	はい、次に平成 25 年度の事業経過についてご説明させていただきます。平成 25 年度は、9 月に特別企画展として「白岡順展」を開催し、入館者数は 2,575 名でした。その他にはロビーのガラスケースを使用して館蔵品の紹介を 5 回行いました。また、関連事業として、ワークショップ・ギャラリートークを開催し、参加者には企画展の内容をより深めていただけたと思います。ボランティアは企画展の運営補助、館蔵品整理などをお願いしました。全体の入館者数ですが、11 月 24 日現在で 28,677 名で、現時点で昨年度の約半分という状況です。
会長	ありがとうございました。野口館長はじめ職員の方々には頑張ってください感謝を申

しあげるところですが、新しい施設ができる方向の中で、入場者が若干減っているのは少し気がかりですね。なんでも結構です。ご意見ある方いらっしゃいませんか。

野村委員

ボランティアの人数が平成 25 年度には急激に減ったということですが。

事務局

はい、このボランティア事業は平成 21 年度にスタートし、任期为 3 年として活動してもらっていましたが、23 年度以降、新たに登録した方が数名で、任期为終えた方が抜けた事もあり急激な減少となっております。

野村委員

その都度どういう形で募集をかけられているのか、私は拝見していないので申し訳ないのですが、実際このボランティアの方に参加して頂いて、現状は足りているのですか。またその企画展の時には何人ぐらい実際には必要で、もし足りてないとすれば、その時々どうしているのですか。

事務局

あくまでも「お手伝い」という位置づけなので、金銭や作品を扱うような重要なものではなく、気軽に参加してもらえる内容で、自主性にまかせて時間の空いている時に来ていただくようなスタイルにしています。ですので来ていただければ助かります。また、企画展に併せてご協力もいただいております。さらにボランティアさんにとって参加してメリットがあったなと感じていただけるようなことをやって行く為には、募集方法や活動内容も見直していかなければいけないのかなと思っているところです。

会長

他になにかございますか。

合田委員

去年は近藤勝也展、今年は白岡順展と新居浜出身の作家で中央で大活躍している方を発掘なさったという所が、すごく素晴らしいなと思えました。特に白岡順先生については、私はこの展覧会で初めて知りましたし、レベルの高い都会的なセンスの作品を見せていただけて良かったです。子供たちがワークショップに大勢参加されているのを見て本当に感心しました。そういったあまり知られていない作家の掘り起こしを今後もしていただき、子どもたちがたくさん来てくれるような展覧会を期待しています。

畑山委員

先ほど総合文化施設の話がありましたが、今まで活動されて来た事を踏まえて、新しい施設でこうしていきたいというような議論はされているのですか。

野口館長

はい、総合文化施設については総合文化施設準備室の室長より説明させていただきます。

畑山委員

わかりました。

副会長

この会も、総合文化施設に繋げていける様なものでありたいですね。

- 井上委員** 入館者の状況を見ていると、近藤勝也展は非常に子どもが多いですが、その他に関しては子どもの入館者数が物凄く少ないですね。先日とある展覧会に行った時の事ですが、途中で幼稚園の子たちが大勢やってきたので、がやがやするだろうなと思っていたら、子どもたちは係の人の説明を真剣に聞いていたんです。しかも子ども向けの説明ではなく大人に言うように説明していたので、さらに驚きました。子どもだからこんな絵は見ても分からないだろうとするのではなく、きちんと入館の手続きをして見学させることで、美術館のマナーも教えていたんです。理解するしないに関わらず、小さい時から「美術館へ足を運び、鑑賞」するという態度を教えるということも、美術館の役割として必要だと感じました。今後そのような機会を作って貰えたらと思います。
- 会長** ありがとうございます。展覧会の内容にもよりますが、子どもさんへのアプローチというのは大きな課題ですね。それから集客という点では、子どもだけでなく大人にも広報する方法が問われると思います。現在の世の中は様々なメディアが増えていますので、マスコミ以外に出来ることを皆で考えてやっていくと広まり方も違って来るでしょうね。これから次のステップに進んでいくのですから、今までの様にただポスターを貼ればよいということではなく、新たな試みで頑張っていくべきだと思います。良い企画展が沢山あるので、見ていただかないと勿体ないですからね。
- 事務局** 直近では、白岡順展と近藤勝也展で、新たな試みとして小学校全校、全生徒にチラシを配りました。また西原元展の時は、ワークショップの募集を全生徒に配布しました。会長の言われたように、マスコミの力を利用しながら一方ではそういう粘り強い活動も必要であると思います。
- 会長** はい。また他にも良い方法がありましたら、皆さんからお教えいただきたいと思いますので宜しくお願いします。
- 内藤委員** 先ほど、入場者の減少が心配だというお話がありましたが、確かに24年度は132パーセントの伸びで、それから比較すると25年度は減ったように見えますが、23年度が1年間で4万2千人ですので、そんなに減少していないかなと思います。とはいえ、やはり未来を担う子どもたちが美術に触れる機会を作るのは凄く大事なことでと思いますので、例えば、イラストレーターの真鍋博さんなど、『新居浜出身の宝物』をもっと探して働きかけをしたらどうかと思います。極端な例ですが、水樹奈々さんの歌を聴いてイラストも見れる、といったものなら大人も子どもも楽しめるのではないのでしょうか。
- 野村委員** 水樹奈々さんが声を担当したアニメの原画展というのもいいかもしれませんね。
- 内藤委員** はい。まだまだ宝物が新居浜にはいっぱいあると思いますね。
- 会長** ありがとうございます。ただ展示をするだけでなく、空間をうまく利用することで新

たなイベントや展示に繋げることができますね。『会場の使い方』というのが一つのキーワードだと思います。

**内藤委員**

四国中央市で毎年行われている「書道パフォーマンス甲子園」は、とても良いアイデアですね。予算的にも低コストでありながら、地域密着型で若者が中心となり芸術を盛り上げてくれるという理想的な形が出来上がっていると思います。見ている側も元気を貰える。そういう活気のある催し物と展覧会と一緒に出来ればいいなと思います。

**副会長**

いわゆるコラボレーションと最近よく使われますけれども、ジャンルが違うので別々の催しにするのではなく、一体になって出来れば、次の施設も長生きすると思いますので、そういう企画を次々と考えて行ったら面白いなと思います。

**会長**

まさに芸術のコラボレーションですね。  
では続いて平成 26 年度の事業計画の説明をお願いします。

**事務局**

平成 26 年度は、館蔵品の整理を中心に事業を進めていく予定です。現在これまで収集してきた所蔵品の情報を整理し、従来の紙台帳だけでなくパソコン上での情報管理が行えるよう、データベース化を進めております。また、館蔵品整理の成果・報告を兼ねた企画展「館蔵品展」を開催する予定です。内容や開催時期については今後具体的に検討していきたいと思います。

**会長**

ありがとうございました。何かご意見ございますでしょうか。

**内藤委員**

これは 26 年度中にデータベース化して終了するということですか。

**事務局**

当初の予定では 25 年度中の完成を目標としていたのですが、予定より作業が難行し遅れている状況です。現在 40 パーセントほど出来ておりますので、26 年度も継続していきます、早期完了を目指したいと思っております。

**会長**

他にありませんか。では、その他、総合文化施設についてご説明をお願いします。

**総合文化  
施設準備  
室長**

はい。総合文化施設準備室の赤尾です。簡単に近況をご説明します。現在大まかな事業計画を組み立ててる最中です。施設としては芸術文化という切り口をしながら、大きくは公共心を養う施設になればと考えています。具体的には、夏休み 7 月～8 月ごろに、演劇などの表現部門を中心とした、子どもさんをターゲットとするフェスティバルのような行事を企画しています。また美術部門も平成 27 年春のオープンを目指しソフト面の準備を進めているところです。オープニングには大々的に企画展をと考えていますが、一方で毎年行われている市展・県展などについても、スポーツ文化課と協議をしながら模索しています。いわゆる「美術館空白地帯」となっている観音寺市から西条市ま

でのニーズを獲得したいという狙いです。頑張れば愛媛県美術館の入館者数に匹敵するほどの人口を抱えている地域ですので、そういった点からも『地元』という考えを大事にしていきたいという思いです。賛否両論ある中で施設が出来ていますので、今回のように様々な活動をなされている方のご意見をきける機会をいただき、これからさらに良い方へ向かうだろうと思います。また色々ご迷惑をかけるかと思いますが宜しくお願い致します。

**会長** どうも、ありがとうございます。なにかご意見ございますか。

**畑山委員** 先程から色々意見がありますが、小さいお子さんから、中・高校生。20代～30代位の若い人たちが気軽に集まれるような施設になって欲しいですね。例えばカフェなどは民間で運営する予定ですか。

**総合文化施設準備室長** 現在、様々な方向から検討中で、詳しいことははっきりとはお伝えできないのですが、基本は地元を中心にということを念頭に置いております。ただ実現までには様々な問題をクリアにしなければと考えています。

**会長** ありがとうございます。ではその他、全体を通じて何かありましたらお願いします。

**岡野委員** 子どもたちがたくさん来る施設というのが一番私も良いと思うんです。特に、小学生の場合は、一人で美術館に来るとするのは少ないですから、保護者つまり親の年代が興味を示してくれるかどうかになります。30～40代のニーズに応えられる様な総合文化施設であれば自然と子供の集客は増えるだろうと思います。白岡順展のチラシも配りましたが、30～40代の親御さんの興味関心は、やはり私の感覚では手応えが無い様に思いました、その辺が残念だというのがありました。この層を発掘するのはなかなか難しいとは思いますがアンケートを取るなどして是非とも集客に繋げて欲しいです。

**会長** ありがとうございます。他ご意見ございませんか。では最後に篠原先生から一言お願いします。

**副会長** 本当に、本日は良いご意見を拝聴出来ました。これで次のステップを踏んでいけるんじゃないかと思っております。是非、今後ともご協力願います。ありがとうございます。

**会長** では、以上で本日の議題を終わりたいと思います。ありがとうございます。

**委員** ありがとうございます。